

JAEF REPORT

令和5年7月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 理事会、評議員会を実施
- ◆ 令和5年度自動車技術教育用教材提供へ103校から応募
- ◆ 40都道府県の研修会(204件)に講師を派遣

- ◆ 令和5年度JAEF研修会の参加者を募集
- ◆ (一社)学びのイノベーション・プラットフォーム HPで財団情報を発信開始

理事会、評議員会を実施

5月から6月にかけて、下表のとおり理事会・定時評議員会が相次いで開催され、令和4年度事業報告・決算、役員体制が承認された。

本年は、理事・監事の改選期に当たり、理事11名、監事2名が選任(重任)されるとともに、6月5日付で退任された評議員4名の後任となる評議員の一部選任案も承認された。新たな役員体制については、別紙の「理事・監事・評議員名簿」をご参照下さい。

会議体 (開催日)	主な議案	開催場所
第29回理事会 (5月16日)	・ 令和4年度事業報告・決算 ・ 第12回定時評議員会の開催	芝パークホテル
第12回評議員会 (6月5日)	・ 令和4年度事業報告・決算 ・ 理事、監事の選任 ・ 評議員の一部選任	日本自動車会館 くるまプラザ
第30回理事会 (6月5日)	・ 代表理事、業務執行理事等の選定	日本自動車会館 くるまプラザ

令和4年度事業のポイントとして、新型コロナウイルス感染が未だに収束していない時期ではありましたが、財団のそれぞれの事業とも、新型コロナの影響をほとんど受けずに、計画通りに活動することができたことが報告された。

令和4年度事業報告の概要

技術教育
支援事業

- Withコロナのもと各種活動を再開し、教材提供、教材贈呈式、講師派遣(PIUS特別講習含む)など計画通り実施

研修事業

- 新型コロナウイルスの影響が続いたが、教員研修会(JAEF研修会)、講師派遣ともほぼ計画通り実施

調査・普及
啓発事業

- 動画学習サイト『早わかり!クルマ塾』のコンテンツ制作、既存副教材のデジタル化など学習ツールを充実。
- SNSでの発信強化、先生方に近接した機会での情報提供などを通じ、財団支援の活用を促進。

▲令和4年度事業報告の概要

…5～6月

財団運営

また、第12回定時評議員会、第30回理事会の終了後、評議員や理事、監事、各委員会・部会の委員に限定した懇親会が開催された。懇親会の冒頭、内山田理事長より「財団は皆様からの賛助会費や基本財産の運用益で活動している。自動車業界を取り巻く環境はたいへん厳しく、財団の活動予算を増やすにも制約があるため、財団の持つノウハウや、関係企業・団体、教育現場とのつながりなどを最大限に活用し、ソフト面での高等学校教育の支援強化に力を入れていきたい」との挨拶がなされた。

財団は、常に「努力と挑戦」の精神で今後とも高等学校における自動車技術教育、交通社会教育の支援に取り組んでいく所存です。皆様方のご支援、ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。



▲第29回理事会の様子



▲第12回評議員会の様子

INFORMATION

7～9月予定

- 23都道府県の研修会(50件)に講師を派遣予定 7～9月
- 審査委員会開催、令和5年度教材提供校を決定 8月1日
- JAEF研修会を開催 7～8月
- 自動車技術教育イベントを支援 8月

令和5年度自動車技術教育用教材提供へ103校から応募

…6月

技術教育

財団は、技術教育支援事業の一環として、今年度対象の14都道府県（以下参照）で自動車技術教育を実施している297校へ6月初めに応募要項を送付した。同月末を応募締切としており、6月30日現在で103校から応募があった（応募率は35%、同地域で公募を行った3年前と比べ12校増加）。本数値は、全国を3ブロックに分け公募・提供する形となった平成22年度以降で最多となる。最終的な提供校および支援内容は、8月1日に開催する審査委員会（加藤秀次委員長）で、厳正な審査・選考により決定する予定である。

<応募内容詳細（第一希望メニュー）>

教材区分別の構成比は、視聴覚教材23%、初級教材62%、中級教材5%、上級教材が10%であった。メニュー別では、分解組立用汎用エンジンが前年度同様1位で38校（全体の37%）、2位はモーター基礎実験セット（自動車の電気・電子技術）で7校（同7%）応募があった。

尚、この秋には今回の提供対象である14都道府県において、当教材の目録贈呈式及び教育懇談会の開催を予定している。従来、各地のホテルなどの会議室を会場としてきたが、自動車技術教育に携わる皆さまに自動車ディーラーの店舗やサービス工場環境について理解を深めていただく好機であることから、各地域の自動車ディーラーも開催場所の候補として検討を進める予定である。

昨年度はネットヨタ高知（株）本社にて贈呈式を開催、その後店舗の見学会を実施し、教育懇談会にて意見交換を行った。参加した先生からは「整備工場を見学することにより、現場環境が大きく改善していることを実感し、ディーラーに対する印象が変わった」など多くの気づきがあったとのことで、有意義な見学会となった。

贈呈式及び教育懇談会の開催については、対象となる地域の自販連各支部（自動車教育推進協議会）の事情に鑑み、緊密にご相談しながら進めさせていただきます。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



▲ 令和4年度に行われた ネットヨタ高知（株）での見学会の様子

【令和5年度 公募地域（14都道府県297校）及び応募校数・提供校数】（6/30現在）

対象地域	北海道	栃木県	埼玉県	東京都	千葉県	神奈川県	富山県	石川県
対象校数	37	20	29	46	15	23	11	17
応募校数	17	7	7	18	3	12	4	3

対象地域	福井県	鳥取県	岡山県	島根県	広島県	山口県	合計
対象校数	9	10	22	7	24	27	297
応募校数	5	2	11	3	2	9	103

【令和5年度 提供教材メニュー】

1. DVD教材（自動車の基礎・電気）	2. DVD&ビデオ「自動車メカニズム」	3. CD教材（ハイブリッド自動車と電気自動車）	4. CD教材（自動車の基礎とエンジンの作動）	5. CD教材（動力伝達・駆動・制動・走行機構の作動）	6. モーター基礎実験セット（自動車の電気・電子技術）
7. 動く図説教材（4サイクル・エンジン）	8. 4気筒4サイクル・エンジン 模型	9. ハイブリッドシステム駆動模型	10. 自動車用電子学習セット	11. 模型で学ぶセンサー技術（自動走行）	12. ガスベンション模型
13. 四輪ホイールアライメント教材	14. 分解組立用エンジン（汎用126cc）	15. 分解組立用電子制御エンジン（660cc or 1300cc）	16. 実習用工具セット	17. 実習用工具トルクレンチ	18. 急速充電器
19. 低床型手動ジャッキ	20. 簡易型エンジンスタンド	21. トレーニングサーキット	22. 燃料電池実験キット	23. 燃料電池システム（エコラン大会用）	24. ビデオスコープ
25. 灯火回路実習装置	26. 実車（中古車）	27. エンジン実習装置	28. スキャンツール（外部故障診断装置）		

40都道府県の研修会(204件)に講師を派遣

・・・4～6月

研修

令和5年度4～6月の講師派遣実績は、開催件数204件（前年同期差 +25件）、参加者68,703名（同+13,870名）といずれも大幅に増加した。新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行したこともあり、各回の平均参加者数が約336名（前年同期差+30名）となり、コロナ禍前のレベル（令和元年度実績：約343名）に戻りつつある。

全204件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 交通安全	198	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
2) 環境・交通技術	2	
3) 自動車技術	4	主に工業系の生徒

尚、研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1)交通安全：計198件

ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	155
「自転車」を取り巻くリスクと損害保険の役割	21
夜間の交通安全対策	14
交通事故を起こして問われる責任と損害保険の役割	7
二輪車（バイク）の交通安全	1

当分野での高評価率（※）は96%（前年同期差+4pp）と大幅に改善した。高評価を得た研修会では、講師の方々より以下事項の工夫にご尽力いただいた。

- ①学校側のニーズを把握しつつ、生徒への研修効果を高められるよう事前に各校と打ち合わせ
- ②ドライバーから自転車、歩行者が如何に見られているか、視点を変えて動画等で指導
- ③対話方式の研修会により生徒が主体的に考え、危険を回避する行動を促す

※高評価率：実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の合計



▲秋田県立秋田北高等学校での講師派遣（交通安全）

2) 環境・交通技術：2件

自動運転技術が拓く未来と人との協調	1
自動運転と倫理法律問題	1

当分野では、自動運転技術に関する最新情報や、倫理法律問題・社会問題をテーマに開催。



▲兵庫県 甲南高等学校での講師派遣（環境・交通技術）

3) 自動車技術：計4件

最新技術：生徒対象	4
-----------	---

当講習は、最新の電動車両の見学などを通じ、先進技術に直接触れることができる出前授業。ハイブリッド車や燃料電池自動車などについて、電気科をはじめとした幅広い学科の生徒でもわかりやすいよう解説している。

参加した先生、生徒からは「電動車両とガソリン車の実車を用いての比較や説明がたいへん分かりやすかった」と高い評価を得た。



▲北海道滝川工業高等学校での講師派遣（自動車技術）

講師については、全204件のうち、202件を地元の自動車教育推進協議会メンバーにご担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。

令和5年度JAEF研修会の参加者を募集

・・・5月～

研修

財団は令和5年度JAEF研修会の募集について、全国の高等学校約6,000校、当財団メールマガジンに登録された先生方への案内、及びSNSを用いた情報発信を行った。また、本年度より新たに「学びのイノベーションプラットフォーム（PLIJ）」のウェブサイト（詳細は次項でご説明）にも掲載し、さらに幅広く参加を募った。本年度は、下表の通り計3回の開催を予定している。

JAEF研修会とは、「交通」「環境」「交通安全」などをテーマとして、全国の高校教諭を対象に実施する財団主催の研修会である。平成4年のスタート以来、関係団体・企業のご協力により、各界の専門家による講演会と施設見学や体験実習などをセットにして行い、参加した先生方から高い評価を得ている。

今年度も文部科学省、および全国高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国総合学科高等学校長協会、全国公民科・社会科教育研究会の後援・協賛を得ており、財団は全国の高等学校の先生方に積極的な参加を呼びかけている。



▲令和4年度 第1回JAEF研修会の様子

【令和5年度JAEF研修会開催計画】

回	開催日	会場	テーマ・講演・講師	関連施設見学 体験実習	参加人数
1	7/26 (水)	日本自動車研究所 (茨城県つくば市、 東茨城郡城里町)	ー「自動運転技術」に関する講演と各種評価試験設備の特別見学ー ～城里テストセンターでは国際級の高速周回路をバスで走行体験～ 【講演】『「自動運転技術」研究開発の現状と実用化への課題について』（仮称） 【講師】一般財団法人 日本自動車研究所 自動走行研究部 研究主幹 内田 信行氏	つくば研究所 城里テストセンター	20名
2	7/31 (月)	マツダ (広島県府中町)	ー「マツダ」高度運転支援技術 Mazda Co-Pilot Conceptー ～講演とマツダミュージアム・マツダ本社工場の見学～ 【講演】『「人間中心」の高度運転支援技術 Mazda Co-Pilot Conceptについて』（仮称） 【講師】マツダ株式会社 R & D戦略企画本部 開発戦略企画部 主査 杉岡 孝宏氏	マツダミュージアム 本社工場見学	35名
3	8/9 (水)	日本自動車会館 (東京都港区)	ー「電動キックボード」「16歳以上」免許不要で高校生が乗車可能に！ー ～本年7月施行の改正道路交通法を学び、実習を通じて生徒への指導方法を考える～ 【講演】「高校生から乗れる電動キックボードの安全な普及について」（仮称） 【講師】株式会社 Luup 広報・渉外部長 池上 翔氏 広報・渉外部 渉外担当 國井 さくら氏	電動キックボード 乗車指導 公道走行	40名

*当初計画していた、「日産GRANDRIVE」は諸般の事情により開催見送り

（一社）学びのイノベーション・プラットフォーム HPで 財団情報を発信開始

・・・4月～

普及啓発

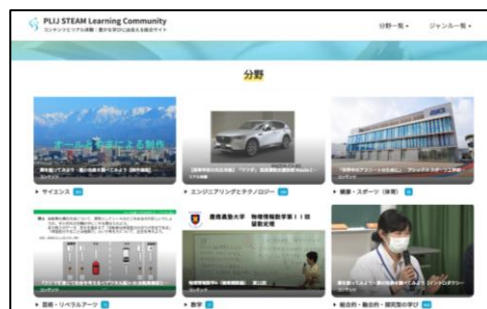
財団は、一般社団法人 学びのイノベーション・プラットフォーム（以下、PLIJ）が運営するウェブシステム「PLIJ STEAM Learning Community」で財団の諸活動に関する情報の掲載を開始した。同システムが稼働を開始した4月28日より、これまでに制作・公開した全動画67本に加え、最新の社会科系副教材、講師派遣・研修会の募集に関するコンテンツを掲載している。

PLIJは、産学官公教が連携しながらSTEAM教育を推進する組織で、教材のライブラリーや同教育を支える人材のネットワーク等の整備を行っている。「PLIJ STEAM Learning Community」では、STEAM教育や探究型の学びに活用できる動画、工場見学や出前授業などの情報を掲載している。

多くの教育関係者の方々に当財団の支援活動を認知・活用していただける好機と捉え、今後も当ウェブシステムにて積極的な情報発信を実施していく。

「PLIJ STEAM Learning Community」は以下URLよりアクセスできます。

<https://community.plij.or.jp/>



▲「PLIJ STEAM Learning Community」
トップページ



▲財団コンテンツの掲載例
(HP内検索結果の一部)